



火や花火を使うときは親子で一緒に

子どもだけでの火遊びが火災に発展

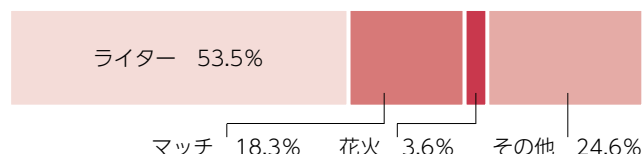
令和7年中、火遊びによる火災は全国で491件発生しています。令和6年の件数と比較すると105件増えています。子どもだけで火を取り扱った時に火災に発展することが多く、大人がいないために発見が遅れ、火が燃え広がる要因にもなっています。

さらに、火遊びが原因の火災のうち、「ライター」によるものが263件(53.5%)で最も多く、次いで「マッチ」によるものが90件(18.3%)、「花火(煙火)」によるものが18件(3.6%)となっています。これらが全体の件数の7割以上を占めています。

【火遊びによる火災件数（全国）】

令和6年 386件 ▶▶▶ 令和7年 491件

【火遊びによる火災の原因】



火や花火を使う時に注意したいポイント

火遊びによる火災を未然に防ぐためにも、大人が子どもたちに対して正しい火の取り扱い方や火災の恐ろしさを教える必要があります。火や花火を使う前は、子どもたちと火の取り扱い方や恐ろしさについて話し合うようにしましょう。

火の取り扱い

- ▶ 子どもだけを残して外出しない
- ▶ ライターやマッチを子どもの手の届くところに置かない
- ▶ 子どもだけで火を取り扱わせない
- ▶ 火遊びをしているところを見かけたら注意する
- ▶ 火災の恐ろしさ・火の取扱いについて教育する

花火の取り扱い

- ▶ 風の強いときは花火をしない
- ▶ 燃えやすいものがなく、広くて安全な場所を選ぶ
- ▶ 子どもだけでなく大人と一緒に遊ぶ
- ▶ 説明書をよく読み、注意事項を必ず守る
- ▶ 水バケツを用意し、使った花火は必ず水につける

検査に合格した証「SF マーク」がついている花火を選びましょう

(公社)日本煙火協会の検査に合格した国内を流通する国産・輸入品の花火には「SF マーク」がついています。

検査所では、火薬類取締法に適合しているかを見る「基準検査」、花火の構造、燃焼現象、使用方法に係わる表示を確認し、実際に着火して危険の有無を調べる「安全検査」を実施しています。

店舗やネットで花火を買う時には、SF マークがついているか確認しましょう。



▲ SF マーク